

## 特集 2 : 医学・医療 話題のアラカルト

### 【巻頭言】

大 西 克 成 (徳島大学大学院医学研究科生体制御医学講座分子細菌学分野)

高 橋 正 倫 (徳島県立中央病院検査部)

昨年度冬期の徳島医学会学術集会は集まりがあまりよくなかったという反省がありましたので、今回の第224回学術集会ではできるだけ多くの方に感心を持っていただくようなテーマにしました。まず、特集1にありましたように産業医の更新時期にあたりますので、その関係の一つのテーマにしましたし、徳島県は結核罹患率が日本で4番目に多い県であり、結核有病率は1 - 2位ですので、橋本忠世名誉教授 (Loyola大学) に特別講演「結核対策の問題点」をお願いしました。次に、整形外科の方々にも参加していただくために、教授就任記念講演を安井夏生教授にお願いし、徳島医学会賞受賞者記念講演とポスターセッションを加えました。また、この特集にありますように、さらに感心がある方を増やすためにセッション2はアラカルトにして、6点セットを企画いたしました。

さて、この医学・医療 話題のアラカルトでは、まず基礎医学から、院内感染で問題になっている耐性菌の克服のための新しい方法を開発しておられる樋口富彦教授 (薬学部) に薬剤の感受性増強薬について講演していただきました。昆虫や生薬植物から抽出した各種フラボノイドの中に抗菌活性はないが  $\beta$ -lactum 剤による MRSA に対する感受性を32,000倍も高める物質を発見し、Inducer of  $\beta$ -Lactum drugs-Susceptibility of MRSA (ILSMR) と命名して、その画期的な有用性を明らかにされました。

次に、内科から谷憲治助教授 (生体防御腫瘍

医学講座分子制御内科学分野) に日本に70万人の患者がいる慢性関節リウマチの新しい治療法について、特にサイトカインをターゲットにした抗サイトカイン療法について講演していただきました。抗 TNF- $\alpha$  抗体や抗 IL 6受容体抗体などを使った臨床試験について慢性関節リウマチの治療の進歩を述べていただきました。

外科からは、寺嶋吉保講師 (器官病態修復医学講座臓器病態外科学分野) に QOL 向上のためのモルヒネ使用法を解説していただきました。WHO によるモルヒネ使用推奨以来日本でも癌性疼痛に対してモルヒネがよく使われるようになったとはいえ、まだ欧米にくらべると少ない現状です。癌性疼痛以外の疼痛に対しても適正に使用することがこれからの課題です。

最後に、生活習慣病であり、徳島に多いといわれる糖尿病が進行して網膜症となり、ついには失明するのをいかに予防するかについて眼科の立場から賀島誠先生 (感覚情報医学講座視覚病態学分野) に述べていただき、その治療法について解説していただきました。

以上のようにいろんな方面のすばらしい講演が続き、最後の橋本先生の特別講演までにこの第224回徳島医学会学術集会に参加された先生方が300名近くになりました。このように盛大な学会を終えることができましたことを、講演された先生方はもちろんのこと徳島県医師会はじめ徳島大学の先生方など関係各位に感謝申し上げます。